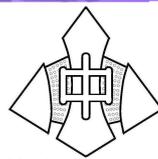


- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和3年12月17日(金)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

手をたずさえて

観る人の「今」を全力で楽しませてくれるライブでした!! 創立60周年記念行事 増田太郎さん教育講演ライブ

12月3日(金)には創立60周年記念行事として増田太郎さんをお迎えし、教育講演ライブが開催されました。講演テーマは《じぶんを生きる!》。私が多くを語らなくとも、生徒達の感想からその素晴らしさを感じ取ることができると思います。上記の見出しも2年生の感想から抜粋した文です。このライブには、多くの有名アーティストのサポートを行ってきたキーボード奏者である矢嶋マキさんも駆けつけてくださり、太郎さんとの共演で2曲披露していただきました。普通では考えられないスペシャルなゲストを迎えての至福のライブとなりました。

3年生

■ 僕はこのライブを聴いて、まず最初に驚きました。ヴァイオリンの迫力に。

最初の小ネタのところで、ヴァイオリンが日常的な音を出せることにも驚きました。しかもとてもリアルでした。「Tango Voyage」は小刻みなリズムになったり、音の大きさが急に変わったり、心の中がうずきだすような感覚がありました。

「希望の景色」は一変して落ち着いた音が奏でられました。矢嶋マキさんとのセッションでは、ヴァイオリンの透き通るようなきれいな音色と、ピアノの芯のある低い音が、まるで人生を表すかのような感覚を味わわせてくれました。ヴァイオリンを弾きながら歌うという太郎さんの独自のスタイルで演奏した「ぼくにはきみがいる」では、太郎さんの強い声と、少し弱く弾いていた弦の音がうまく重なり合い、心に残るものでした。校歌を歌ったときは、自分の中に不思議な感じがしました。ヴァイオリンが入るだけで、みんなの声がいつもよりきれいに聴こえました。2年生の群読と太郎さんの演奏は、詩の内容がとても深く、それを強調するかのような太郎さんの演奏に感動しました。今日太郎さんの演奏を聴けて幸せでした。目が不自由になってしまったことを感じさせぬ力強い演奏と明るさ、生きることの尊さ、それらを目で、耳で、心で聴くことができ、本当に嬉しかったです。



太郎さんとマキさんのセッション。
東日本大震災直後に作られた「希望の景色」とアメリカ民謡「シェナンドー」の2曲。心にしみ渡る演奏でした!

■ もう「言葉では言い表せない」。その一言に尽きる演奏だった。私は「音楽」というものに疎く、弦楽器の違いも説明できないような人間だ。クラシックを含め古典的な音楽に親しむこともなく、ヴァイオリンの演奏など、学校の音楽の授業でしか聴くことがなかった。そんな中、私は「増田太郎」という人物に出会った。正直に言うと、私はヴァイオリンの演奏を楽しむにしていなかった。しかし、そんな私の心を掴んだのが、彼の演奏だ。音の響きの良さ、そして、演奏の実力など、音楽に疎い私でも簡単に分かる。申し訳ないが、貧相な私の頭では、常套句(じょうとうく)しか思い浮かばない。「凄すぎる」…彼の演奏は「キレイ」とか、「上手い」とか、そんなレベルではなかった。「増田太郎」はそれだけではない。彼のトーク力だ。想像の倍以上朗らかな人で、直ぐに全員の心を掴んだ。彼は20歳で視力を失ったが、そんなことを考えさせない巧みな話術だった。そんな人物を見て、私は、受験に対しマイナスなイメージだけを抱いていたのがバカらしくなった。彼に比べれば、大した事ではないのだ。彼は「受験は人生の通過点に過ぎない」と、そう私に思わせた。今回の演奏は、人生の長い旅路を生きていく中で、絶対に忘れることはないだろう。

■ 今回のライブで「生きること」「音楽の力」を再発見することができました。私はヴァイオリンの生演奏は初めてで、ヴァイオリンの歌うような音色と太郎さんの響き渡るいい声に感動しました。「希望の景色」では、大切な家族と中学校生活の3年間をイメージしました。私は、2年生の時に大好きな祖父を亡くしました。その時は悲しくて何も手につきませんでした。その時私は「生きていること」を考えるようになりました。私は生きることを「毎日何が起こるか分からない中で一日一日を精一杯生活すること」だと考えていました。今日の太郎さんの演奏でそれを再確認できて、太郎さんの考える「生きること」の意味も目で見て、耳で聞いて感じることができました。今回のライブで太郎さんの人生、人柄、曲への強い思いを全身で感じ取れて、とてもうれしかったです。つらい出来事があっても、自分を見失わないで自分が生きていく道は自分で決めて歩いていかなければならないのだと思いました。何かをなくしても、それ以外は何ひとつ変わらないし、もしかしたら失う前するときより輝いているのではないかと本気で思いました。太郎さんのように、私も人との出会いを何よりも大切に、人が生きることに音楽が与えてくれる力を探し続けたいと思います。

■ ライブは「音楽」の文字どおり、太郎さんの奏でた音を楽しめました。それに加えて、太郎さんのユーモアあふれるお話や太郎さんの大切にされている言葉を聞いて、本当に充実した時間を過ごすことができました。私は中学生になって大切な人がたくさんできました。これから生きていくなかで、もっといろいろな人と出会うと思います。校長先生のおかげで太郎さんと出会えたように、これからの出会いを今まで以上に大切にしたいです。

■ 太郎さんの演奏を最前列で聴けて良かったです。校長先生は“太郎ワールドにどっぷりとひたる”という表現を使っていましたが、私は“太郎ワールドが聴いている人をのみ込む”という表現が合うのではないかと演奏を聴きながら思いました。これからも人々をのみ込んで、ファンを増やし、大きな存在になることを願っています。

■ 最後の「生きる」では、命の尊さを改めて知りました。2年生の言葉がとても心にしみ、それに合わせて太郎さんの笑顔を見て、とても感動しました。私は本当に笑顔っていいなと思いました。私は将来スパリゾートハワイアンズのフラガールになろうと思っています。フラガールになるためには、笑顔がとても大切です。太郎さんの笑顔を見て、私も何事にもがんばれる気がしました。

■ 太郎さんのすばらしい音色を聴くと心が落ち着き、とても感動しました。考える前に、あらゆる身体感覚を使って楽しめるライブ。そんなライブだったと思います。また、僕は太郎さんの雰囲気終始和まされていました。温かく、そして力強い太郎さんの雰囲気、心が洗われるような素敵な演奏、そして、心にまで響く感動的なメッセージ、この3つの要素が重なり、とても素敵な時間を過ごせたことにとっても感謝しています。そして、僕が今日一番驚かされたことは、太郎さんの演奏を聴いている時の全校生徒の反応です。太郎さんが舞台上上がった時、僕たちは緊張していても静まりかえっていました。しかし、太郎さんの演奏が始まり、演奏やジョークを聴いているうち、僕たちは自然と笑い、手拍子をしていました。音楽や太郎さん自身にこんな大勢の人を和ませる力があることに驚かされました。



■ 私はまだ15歳で、自分が将来何になりたいのかがはっきりと決まっていません。今まで生きてきて、つらかったことや悔しかったこと、嬉しかったこと、幸せだと思ったことが山ほどありました。きっとこの先もまだ何が起こるか分からないけれど、つらいことやもうやめたいと思うことがたくさんでくると思います。でも、太郎さんに出会って、自分の気持ちの考え方が明るく変わりました。自分を嫌って生活するより、自分に自信をもって生きたほうが、感じられる幸せが倍になるのではないのかなと思いました。私は今、受験という壁の目の前にいます。たまに勉強をやめたいと思ってしまうことももちろんあります。でも、自分の可能性を信じて、壁を乗り越えようと思うことができました。2年生が群読した「生きる」はとてもすばらしかったです。詩の中に確かにそうだなと共感できるところがたくさんありました。今、生きていて、いろいろな人に会い、大切な人たちと一緒に生活できることは、ある意味で“奇跡”なのかなと思いました。

教育講演ライブ Set List

- 1 You raise me up
アイルランドのミュージシャン
シークレット・ガーデンの楽曲
- 2 Tango Voyage
- 3 ハイファイブ!
- 4 希望の景色
- 5 シェナンドー Shenandoah
19世紀のアメリカ民謡
- 6 家路 ~ on my way home
映画 六角精児主演
『くらやみ祭りの小川さん』主題曲
- 7 ぼくにはきみがいる
- 8 アスリートのテーマ
- 9 校歌 全校生徒とのコラボ
- 10 「生きる」 生徒群読とのコラボ

【No.37に続きます!】